

令和 5 年 10 月 26 日現在

機関番号：84604

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12561

研究課題名(和文) アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological researches on the end of Angkor dynasty and transformation of ceramic demands

研究代表者

佐藤 由似 (Sato, Yuni)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・企画調整部・主任専門職

研究者番号：70789734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はカンボジア中でも衰退の時代と考えられてきたアンコール王朝末期からポスト・アンコール期にかけての王都出土遺物の調査をもとに、当時の社会・経済・宗教的変容について検討を試みるものである。ポスト・アンコール期の王都ロンヴェーク出土陶磁器の調査により、ロンヴェーク政権はアユタヤと政治的対立を続けていたにもかかわらず、出土遺物から見る限りは相当量の交易をおこなっていたことが垣間見られる結果となった。また、スレイ・サントーにおいては14世紀ごろの輸入陶磁器を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アンコール末期からポスト・アンコール初期にあたる14世紀から16世紀にかけての陶磁器の様相を把握することができた。とりわけ16世紀にロンヴェークでは相当量の遺物量を確認し、衰退の時代と言われた中でも積極的に対外貿易をおこなっていたことが判明した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to examine the social, economic, and religious transformations of the period based on a survey of excavated artifacts from the royal capital from the late Angkor dynasty to the post-Angkor period, which has been considered a dark age of Cambodia. The survey of excavated ceramics from Longvek, the royal capital of the Post-Angkor period, has revealed that the Longvek regime was engaged in a considerable amount of trade with Ayutthaya, despite the political conflicts between the two. In Srei Santhor, imported ceramics dating from the 14th century were found.

研究分野：考古学

キーワード：ポスト・アンコール 輸入陶磁器 ロンヴェーク スレイ・サントー アンコール

1. 研究開始当初の背景

本研究はカンボジア中でも衰退の時代と考えられてきたアンコール王朝末期からポスト・アンコール期にかけての王都出土遺物の調査をもとに、当時の社会・経済・宗教的変容について検討を試みるものである。アンコールは600年間にわたり反映したがその終焉とその後については、不明なところが多い。また、カンボジアにおける既往研究はアンコール期に集中し、それ以降のポスト・アンコール期に関する研究がごく限られており、当該期の王都にあたるロンヴェークやスレイ・サントーに関しては筆者らが調査を開始するまで、本格的な考古学調査はおこなわれていなかった。

2. 研究の目的

本研究では、アンコールと16世紀の王都ロンヴェークの間に位置付けられる王都スレイ・サントー出土遺物の調査をおこなうことにより、アンコール、スレイ・サントー、ロンヴェークの連続した三都出土陶磁器の基礎資料を集成することを目的としていた。これによって、各王都の年代観や交易活動をはじめとした社会・経済活動の一端を把握することが可能となる。

3. 研究の方法

本研究期間中、アンコールでは、王朝末期に位置づけられるアンコール・トム内の西トップ遺跡出土陶磁器に関する調書作成、ポスト・アンコール期の王都であるロンヴェークにおける遺構・遺物調査、スレイ・サントーにおける現地での遺構・遺物分布調査をそれぞれおこなった。

4. 研究成果

アンコールにおいては王朝末期に位置づけられる西トップ遺跡においてその出土遺物の調査をおこなった。そこで12世紀から14世紀にあたる中国陶磁をはじめ、クメール陶器の瓦などの調書を作成した。

ロンヴェークにおいては、当初想定していたよりも大きな成果をあげることができた。現地での遺物採集調査により、量・質ともに高い16世紀代の輸入陶磁器の出土を確認することができた。2km四方のロンヴェークにおいて、遺物分布に差が認められることも判明し、ロンヴェーク南東部にとりわけ遺物量が多く、中央部では比較的高級な部類の陶磁器も出土した。

またロンヴェークが位置する台地のすぐ下側はトンレサップ川の氾濫原にあたり、トンレサップ川を遡上した貿易船から小船に積み替え、陶磁器を含めた貿易品等を運搬した可能性が考えられた。ロンヴェーク政権はアユタヤと政治的対立を続けていたにもかかわらず、出土遺物から見る限りは相当量の交易をおこなっていたことが垣間見られる結果となった。

スレイ・サントーに関しては、スレイ・サントーの中心地であったと考えられるバサンという地名は、現在2か所存在しており、どこが15世紀当時のバサンであったのか不明のままであった。本研究では、バサンの丘という地名が残るプラサート・プレア・ティエット・バライにおいては聞き取り調査ならびに考古学調査をまずおこなった。当地域では、アンコール期のクメール陶器・土器を中心に14世紀頃の中国陶磁を多く確認したが、15・16世紀以降のポスト・アンコール期に位置づけられる遺物が少なかった。そのため、もう一つのバサンの地を調査する予定であったがコロナ禍のため実施することができなかった。

そのため当該期のカンボジアがどのように海外と貿易を進めていたか、さらに理解を進めるために日本・カンボジア間貿易を一時例として長崎・平戸・波佐見において文献調査ならびに現地調査を行った。

コロナ禍のため、調査が制限された部分もあるが、アンコール末期からポスト・アンコール初期にあたる14世紀から16世紀にかけての陶磁器の様相を把握することができた。とりわけ16世紀にロンヴェークでは相当量の遺物量を確認し、衰退の時代と言われた中でも積極的に対外貿易をおこなっていたことが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Grave Peter, Kealhofer Lisa, Stark Miriam T., Ea Darith, Chhay Rachna, Marsh Ben, Phon Kaseka, Sugiyama Hiroshi, Tabata Yukitsugu, Sato Yuni, Keo Sovannara Sok, Chhay Visoth, Veerawan Sutee	4. 巻 40
2. 論文標題 Angkorian Khmer stoneware: production and provenance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6. 最初と最後の頁 103231 - 103231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jasrep.2021.103231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato Yuni, Tamura Tomomi, Sugiyama Hiroshi	4. 巻 2
2. 論文標題 A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at the Western Prasat Top	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preah Nokor	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 由似	4. 巻 180
2. 論文標題 ポスト・アンコール期の王都ロンヴェークと対外貿易	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史観	6. 最初と最後の頁 84-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤由似・田村朋美	4. 巻 42
2. 論文標題 ミャンマー陶器の化学分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東南アジア考古学	6. 最初と最後の頁 5 - 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Sato Yuni, Tamura Tomomi
2. 発表標題 A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top
3. 学会等名 SPAFAON21 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤由似
2. 発表標題 アンコール王朝末期 西トップ遺跡調査成果とその検討
3. 学会等名 東南アジア考古学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuni Sato
2. 発表標題 Preliminary result of the archaeological research on the early modern period of Cambodia
3. 学会等名 Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia Conference of New Research on Archaeological Field between MoCFA with other Partners (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuni Sato
2. 発表標題 Early Modern period Cambodia: interim results from archaeological investigations at Longvek, 16th - 17th centuries
3. 学会等名 SPAFAON19 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤由似
2. 発表標題 14世紀～16世紀におけるカンボジア王都に関する調査報告
3. 学会等名 古代史科研第2回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuni Sato
2. 発表標題 Ceramics from Longvek
3. 学会等名 Yosothor Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuni Sato
2. 発表標題 Ceramic study in Cambodia and Myanmar -Based on the archaeological researches by Nara-
3. 学会等名 EWCC Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuni Sato
2. 発表標題 Recent Results on the Research and Reconstruction Project of the Western Prasat Top, Angkor
3. 学会等名 International Symposium 2022 Asian Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Ashley Thompson	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NUS Press	5. 総ページ数 314
3. 書名 Early Theravadin Cambodia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------